

# 病害虫情報(第11号)3月予報

令和7年2月27日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 3月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 7

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和7年2月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 3月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

### 【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病 (中晩柑類)	—	○	(予) コサイド3000 [発芽前, -] 1,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予) ICボルドー66D [-, -] 25~200倍 等 ❖ ICボルドー66Dを発芽後に使用する場合は、アビオン-E1,000倍を加用する。また、マシン油乳剤との近接散布(2週間)は避ける。
ミカンハダニ	並	△ (発芽後)	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ❖ 冬期に防除しなかった園は、発芽後に必ず防除する。
ミカンナガタムシ	—	△	❖ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ❖ 詳細は令和6年12月20日発表の「病害虫発生予察注意報 第3号」を参照する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和6年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ウメ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
かいよう病	—	○	(予) コサイド3000 [硬核期まで, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等 ※ 強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。
灰色かび病	—	○	(予) ベルクート水和剤 [30日, 3回] 2,000倍 等 ※ 花びらが散り、萼(がく)が残っている落弁期に防除する。
灰星病	—	○	※ 灰星病は花から感染し、枯れた枝が翌年の伝染源になる。枯れた枝は萌芽期から新梢展開期が発見しやすいので剪除する。
アブラムシ類	—	○	チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 等 ※ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
もち病	並	○	(予) ドイツボルドーA [14日, -] 500倍 (予) コサイド3000 [14日, -] 1,000倍 等 ※ 前年の多発園では必ず散布する。
カンザワハダニ	やや多	○	【開葉後】 バロックフロアブル [14日, 1回] 1,000~3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日, 1回] 2,000倍 等 ※ 初期防除に重点をおく。 ※ バロックは、ラベルを確認のうえコサイドとの近接散布を避ける。 ※ ダニゲッターは、覆下栽培では萌芽前に使用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和6年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
灰色かび病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病: 7.5～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 灰色かび病: 1,000～1,500倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日, 3回] 灰色かび病、葉かび病: 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日, 3回] 灰色かび病、葉かび病: 2,000倍 うどんこ病: 2,000～4,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日, 2回] 灰色かび病、うどんこ病: 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病: 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] うどんこ病: 500倍								
葉かび病	並	○									
うどんこ病	やや少	○									
コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	並 並	○ ○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 アニキ乳剤 [前日, 3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ : 1,000～2,000倍 カスケード乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍、コナジラミ類: 4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類: 500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。								
アザミウマ類	並	○									
			◆ 花殻や枯れた葉先は除去する。 ◆ 多湿にならないように管理する。 ◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。								
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										
			◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。								

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: ベストガード水溶剤(10日)、カスケード乳剤(2日)、アニキ乳剤(1日)、ポリオキシシンAL水和剤(1日)

# 病害虫情報 (令和6年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍 等 ◆ 過湿になると多発する恐れがある。午後は換気に努める。										
うどんこ病	やや少	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。										
アブラムシ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍 コナジラミ類:2,000倍										
コナジラミ類	並	○	コナジラミ類:2,000倍										
オンシツコナジラミ	やや多	○	カスケード乳剤 [前日,4回]										
アザミウマ類	並	○	ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 等										
ミナミキイロアザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
ミカンキイロアザミウマ	並	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和6年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
灰色かび病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000～1,500倍 等 ※ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。
うどんこ病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) クロスアウトフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 (治) サフオイル乳剤 [前日, -] 300倍 等 ※ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ※ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。
アブラムシ類	並	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類			チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 エコピタ液剤 [前日, -]
オンシツコナジラミ	やや少	○	アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍
タバココナジラミ	並	○	サフオイル乳剤 [前日, -] アブラムシ類: 300～500倍、コナジラミ類: 300倍 等
アザミウマ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] 1,000～2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等 ※ ハダニ類に関する防除情報を令和6年12月5日に発表している。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: バリアード顆粒水和剤、ファインセーブフロアブル、エコピタ液剤(以上、1日)、スピノエース顆粒水和剤(2日)

【春キャベツ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 —	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 菌核病: 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍
菌核病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 やや少	○	◆ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。 ◆ 灰色かび病の発病部位は、見つけ次第除去する。
コナガ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 並	○	アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ: 1,000~2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日,2回] コナガ、アブラムシ類:1,000~2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
アブラムシ類 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 並	○	ウララDF [前日,2回] アブラムシ類:2,000~3,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),—] コナガ:1,000~2,000倍、ネギアザミウマ:1,000倍
ネギアザミウマ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	— —	○	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和6年度・第11号・3月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 3月の気象予報(気象庁 2月25日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

\* 2月20日発表1か月予報による

### (2) 3月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区、無防除区ともに発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
チャ	もち病	少	並	1) 前年9月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 前年9月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	少	やや多	1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 前年9月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
促成トマト	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	葉かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が過去6年平均よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

# 病虫害情報

(令和6年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和6年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ (横浜・藤沢 地区)	菌核病	—	やや少	1) 昨年11月の秋冬キャベツの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	—	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原、県予察ほ(平塚)ともに平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アブラムシ類	—	並	1) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来数は、平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
春キャベツ (三浦半島 地区)	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンバル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回